

授業科目	言語発達障害Ⅵ (援助法一応用)				
担当者	松下真一郎・他				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・ AAC の実際について学ぶ。
- ・ 脳性麻痺児の言語障害の特徴やコミュニケーションの問題点を学習する。また、ボバース概念による言語治療の考え方を学び、評価の仕方を学ぶ。その上で摂食指導を行っていく上での基本の実技を学習する。
- ・ 乳幼児における視覚・聴覚・体性感覚の統合の重要性を踏まえ、身体運動の必要性を考察する。更にその問題構制を自閉症スペクトラムに敷衍して考察する。

## ■ 到達目標

1. AAC の適用について判断できる。
2. 脳性麻痺児の言語障害やコミュニケーションの問題、食事の問題点を知る。そして、それに対する援助方法を知り、理解する。
3. 脳性麻痺児の言語障害やコミュニケーションの問題、食事の問題点を知る。そして、それに対する、援助方法を知り、理解する。また、実際に指導を行っていく際の食べさせ方、飲ませ方、咀嚼を促す方法を習得する。
4. 新たな視点から言語発達障害を捉え直し、その理解を拡げる。

## ■ 授業計画

- 第1回 マカトンサイン, サウンズ&シンボルズ AAC 概論 (講師非公表)
- 第2回 マカトンサイン, サウンズ&シンボルズ 理論 (講師非公表)
- 第3回 マカトンサイン, サウンズ&シンボルズ 演習 (講師非公表)
- 第4回 マカトンサイン, サウンズ&シンボルズ 当事者に来ていただき演習 (講師非公表)
- 第5回 マカトンサイン, サウンズ&シンボルズ 当事者に来ていただき演習 (講師非公表)
- 第6回 日本版 PIC シンボルの概要、指導方法 (講師非公表)
- 第7回 シンボルを使ったコミュニケーション指導の事例 (講師非公表)
- 第8回 脳性麻痺児の言語障害概論 (口腔機能の正常発達も含めて) (講師非公表)
- 第9回 脳性麻痺児のコミュニケーションの問題と援助 (講師非公表)
- 第10回 ボバース概念による言語治療・評価 (講師非公表)
- 第11回 摂食指導について (実技演習) (講師非公表)
- 第12回 乳幼児における視覚・聴覚・体性感覚の統合の重要性 (松下)
- 第13回 乳幼児の視覚・聴覚・体性感覚の統合における身体運動の必要性 (松下)
- 第14回 自閉症スペクトラムにおける視覚・聴覚・体性感覚の統合 (松下)
- 第15回 自閉症スペクトラムにおける身体運動の必要性 (松下)

## ■ 評価方法

筆記試験100%

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

- ・ AAC に関する書籍に目を通しておくこと
- ・ 脳性麻痺児・者に対する関わりについて知識を整理しておくこと
- ・ コミュニケーション・言語に関する書籍に目を通しておくこと

■ 教科書

書名：言語聴覚療法シリーズ12 言語発達障害Ⅲ  
著者名：笠井新一郎  
出版社：建帛社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって